

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	都市近郊農地の持続的な維持管理に向けた共同活動の現代的役割
Title(English)	
著者(和文)	坂村圭
Author(English)	Kei Sakamura
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10352号, 授与年月日:2016年9月20日, 学位の種別:課程博士, 審査員:中井 検裕,坂野 達郎,土肥 真人,真野 洋介,十代田 朗,星 勉
Citation(English)	Degree:, Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10352号, Conferred date:2016/9/20, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： 社会工学 専攻
Department of
学生氏名： 坂村 圭
Student's Name

申請学位(専攻分野)： 博士 (工学)
Academic Degree Requested Doctor of
指導教員(主)： 中井 検裕
Academic Advisor(main)
指導教員(副)：
Academic Advisor(sub)

要旨(和文 2000 字程度)
Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本論文は、「都市近郊農地の持続的な維持管理に向けた共同活動の現代的役割」と題し、7 章から構成される。

第 1 章「はじめに」では、まず、成熟期の都市近郊農地の問題の根底は、農地が私的所有という恣意性の内に維持管理されているのにも関わらず、国土の持続的な保全・都市部の豊かな生活の実現のために、永続的な公益性の発揮を期待されているという矛盾にある、と捉える問題意識からはじまる。そして、新たな農地の維持管理活動として、私的所有権や個別的利益の枠を超えた共同組織による内発的な活動が、都市近郊農地の公益性を担保するために必要となるのではないかという仮説を提示する。この上で既存研究のレビューを行い、本研究の目的を、成熟期に都市周辺部の農業地域に求められる、都市農村ガバナンスのあり方を考察するとともに、この都市農村ガバナンスにおける共同活動の現代的役割を明示し、農家・市民団体・行政が関係構築を行う課題を分析することと述べている。

第 2 章「都市農業の土地利用計画上の位置づけと実態との比較」では、日本の風土との関係、都市部の開発との兼ね合いから、土地利用を変更してきた都市近郊部の変遷を辿るとともに、都市計画や農業政策が都市近郊部の土地利用を計画的に規制・誘導できていない行政施策の実情を明らかとしている。また、この結果として、近年、都市近郊農地で持続的な農地の維持管理に対する課題が表出している状況を、統計データを用いて示している。

第 3 章「農地の保全・活用に向けた行政施策とその課題」では、各種行政機関へのヒアリング調査と提供された資料の分析を通じて、都市近郊農地に対する行政施策の変遷とその影響を明らかとしている。行政施策の分析からは、都市近郊農地に対する政治的権力が、規制一辺倒の政策から、保全・活用に向けた方策へと転換しつつあるものの、基本的には市場原理に従った一律の施策しか講じられず、結果として都市近郊農地の保全・活用に対しては点的な効果しか発揮できていない現状を明らかとしている。

第 4 章以降では、都市近郊部の典型的なコモンズ空間として見沼田んぼを対象地に設定して、その維持管理の変遷を現地調査・ヒアリング調査を通じて明らかとしている。

第 4 章「農家による農地維持管理の変遷とその意識」では、見沼田んぼの 18 軒の農家に対するヒアリング調査を通じて意見構造図を作成し、1950 年以降の農家を中心とした農地維持管理の変遷を分析している。この意見構造図からは、農家の個人化、地縁的共同体の衰退、現在の私的維持管理の限界などの経緯に加え、新たな農地の保全・活用に向けた活動に対して既存の土地利用規制が障害となっている現状を明らかとしている。

第 5 章「見沼田んぼにおける共同活動の生成と性質に見る特徴」では、見沼田んぼで活動する

9 団体の市民団体へのヒアリング調査を通じて、農家と市民団体が生み出す新たな共同組織の農地維持管理活動の実態と都市農村ガバナンスへの貢献内容を把握し、その後、この共同活動の生成過程を伝統的コモンズとの比較から考察している。農家と市民団体の共同による農地維持管理活動は、環境・教育・福祉などの生産とは一線を画す基底をもつ市民の発意によって結成される団体が、農業という活動を通じてこの目的を達成する際に生じる活動であり、この結果、農家の手におえない小規模で生産性の低い農地の耕作が達成されると共に、農地の多面的機能の補完がなされている。現代の都市近郊農地では、局所的に、人間の活動である「労働」と、自然を意味する「土地」が「脱商品化」しており、社会的資本が触媒となることで実体的経済が再成立し、この実体的経済の下でコミュニケーション的理解に従った人間的基盤が形成され、地域資源の持続的な維持管理に向かう活動が発生していることを明らかにしている。

第6章「持続可能な都市農村ガバナンスの条件」では、それまでの分析結果を総合し、現代的共同活動のガバナンスの中での立ち位置を鮮明とすると共に、成熟期の都市農村ガバナンスの望ましいあり方を提示している。ガバナンスの中における現代的共同活動の機能とは、地域と土地との関係性を一定の平衡状態に保つ、市場経済成立下に地域資源の実体的管理を達成するものだと考えられる。共同活動が成立することで、人々が相互連関の中に自己を見出し、場所や物、空間の維持や持続性に責任を持ちはじめ、地域という全体的な視点から自己と土地との関係性を再構築し、この結果、持続的な地域維持管理が達成されている。人口減少時代に突入し社会環境が大きく変わった現在、都市計画・農業政策は「規制」ではなく、市民参画を前提とした「誘導」へと転換し、地域資源管理を市場原理から解放して、持続的な公益性の発揮を担保する土地利用へと誘導していく必要があると考察される。

第7章「結論」では、各章の結果を要約し、本論文の結論としている。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： 社会工学 専攻
Department of
学生氏名： 坂村 圭
Student's Name

申請学位(専攻分野)： 博士 (工学)
Academic Degree Requested Doctor of
指導教員(主)： 中井 検裕
Academic Advisor(main)
指導教員(副)：
Academic Advisor(sub)

要旨(英文 300 語程度)
Thesis Summary (approx.300 English Words)

While peri-urban farmland turned to be recognized as an important space to supply foods, maintain natural resources, and enhance the quality of urban life in an era of decreasing population in Japan, unused land and abandoned woodland has been increasing. The fundamental factor of these problems would be the contradiction that is farmlands are expected to demonstrate their public functions even though they are immovable properties for landowners.

To overcome the contradiction and maintain peri-urban farmland sustainability, this study focuses on the social activities designed to provide mutual aid to the farmers by urban residents and considers their role in the desired governance of a suburban area.

To attain the above aims, the 18 interviews to the farmers and the 9 hearing surveys to the social activities were conducted, in addition to the literature reviews and statistical analysis concerning the current issues about maintaining peri-urban farmlands. As a result, this study reveals the specific characteristics of the social activities, such as the function to recover natural environment, preserve ecological system, and inherit culture, as well as emphasizes its ability for maintaining farmlands where general farmer cannot cultivate because of its low productivity.

This study concludes that the understanding of the natural ecology and the formation of the nonmarket economy based on a free labor and land enables the local social activities to keep the ability for social services and management of natural resources. Moreover, for the development of the activities, this study proposes that local authorities would be better to convert a strict land use control to a flexible guidance of land use which calls in a new actor to a maintenance of peri-urban farmlands.

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。
Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).